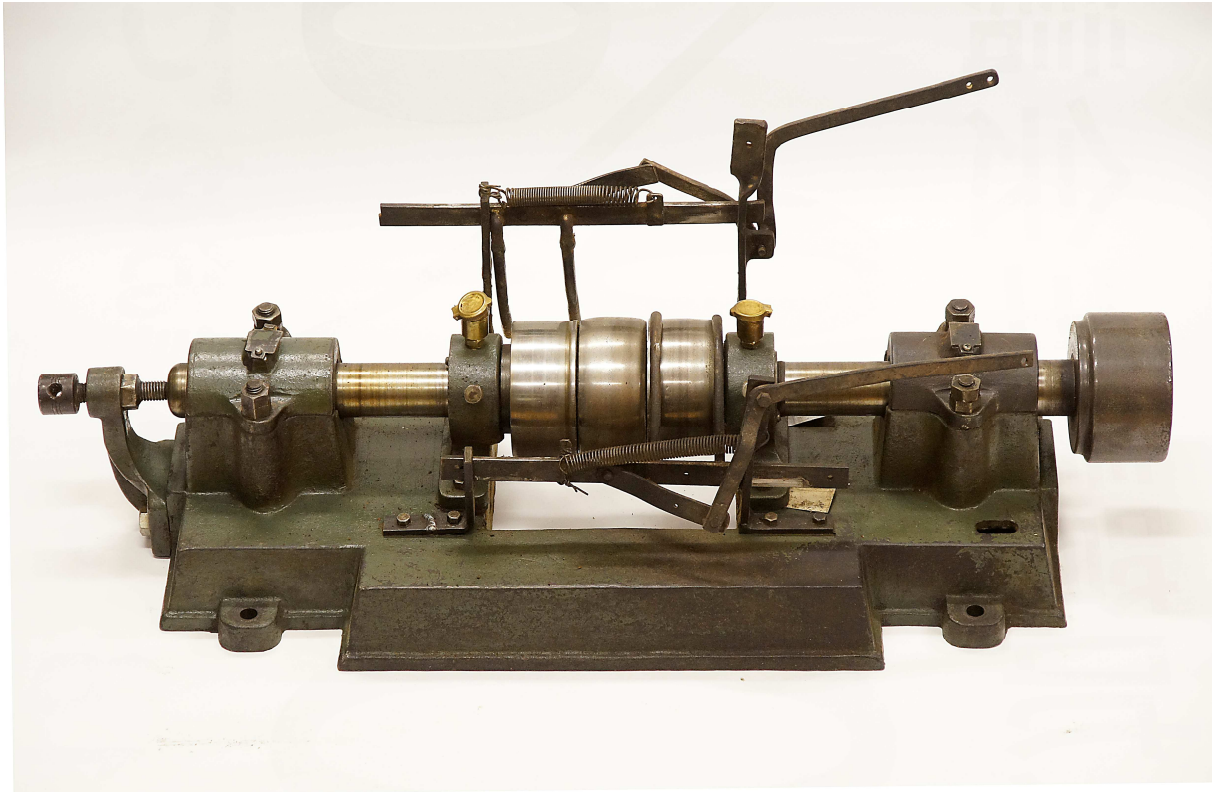


ろくろ  
山中式轆轤（昭和40年製造）



企業名 (旧所在地)	池田鉄工所 ※現存せず（山中木地挽物技術保存会が申請） (加賀市山中温泉富士見町才16)
公開予定場所	石川県立山中漆器産業技術センター
機械の説明	<p>山中漆器の特徴である卓越した挽物技術の高さを支える電動式の木工轆轤である。</p> <p>木地を挽く場合には、木目になって削る必要があるが、主軸が正逆の2方向に回転し、作業も独特の横座方式で行うことにより強度が強い縦木（輪切材）のみならず横木（板目材）も加工でき、山中漆器の工法の多様化に大きく貢献した。</p> <p>また、砲金製のすべり軸受けは長期間試用しても耐久性があり、軸の振動が少なく、軽やかなで安定した回転を発揮する。</p> <p>従来の木製足挽き轆轤に比べ、木地の量産化を可能にしただけでなく多様な加工形態に対応でき、1mmの間に8本の線を挽くといった精緻な加飾が可能となるなど、安土桃山時代から約450年続く山中漆器における木地挽き工程の発展に大きく寄与した。</p>